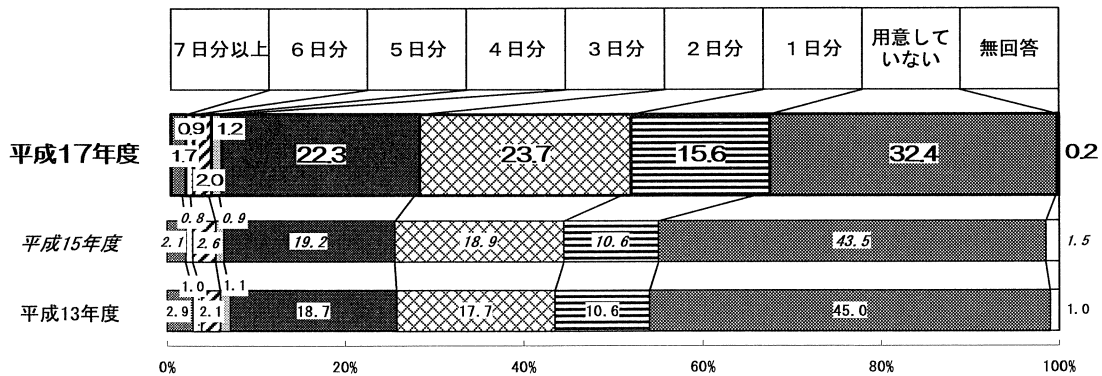
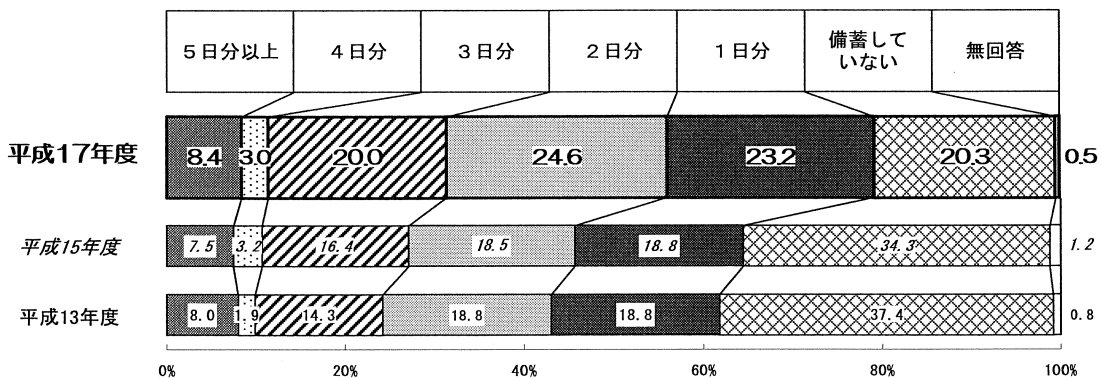


行政も、食料や飲料水をすぐには供給できません。 家庭での備えが必要です。

Q 災害にあったときの非常持ち出し用として何日分の食料を用意していますか。



Q 何日分の飲料水を備蓄していますか。



食料の備蓄

非常食で最低

3日分

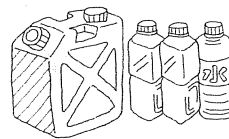
備えて
おきたいのは
7日分



- 普段から非常食3日分を含む7日程度の食料を準備しておく。
- 食料の点検、入れ替えを忘れずに。

飲料水の備蓄

1人1日3ℓ
3日分
(9ℓ)



- 1人1日3ℓの水を最低3日分用意する。
- 市販のペットボトル入りの飲料水でもよい。定期的に変更し、順次買い替えていく。

東海地震が発生した場合、食料の供給活動が開始されるまでに、7日間ほど時間が必要となります。

東海地震が発生した場合、飲料水の供給活動が開始されるまでに、3日間ほど時間が必要となります。

日持ちのよい食品を備蓄し、定期的に交換しましょう。

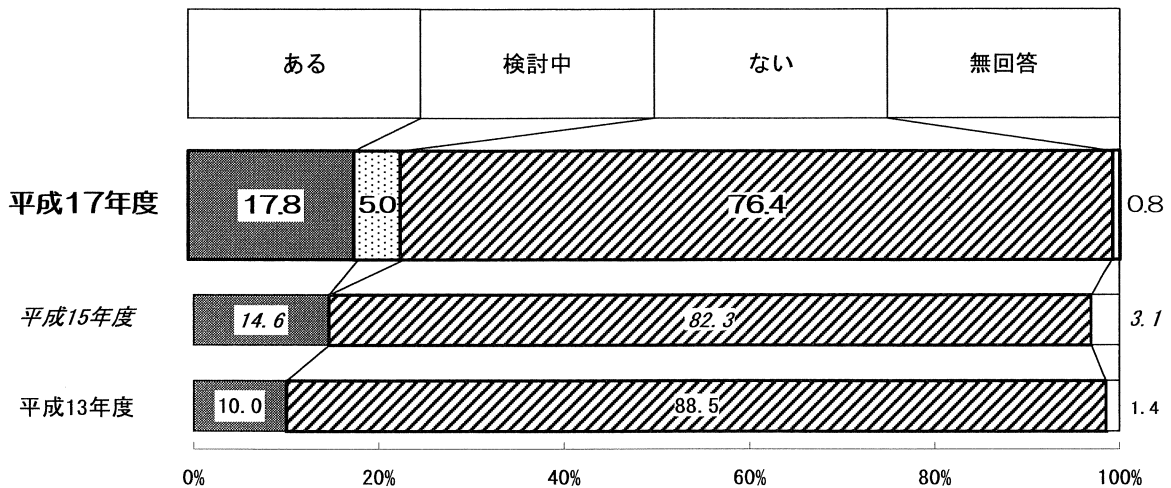
- 主食** 米・カンパン・インスタント食品など
- 副食** 漬物・梅干し・佃煮・缶詰など
- 調味料** 味噌・しょう油など

生活用水の確保として・・・

- いつも風呂に水をためておきましょう。
- 水洗トイレのタンク内の水も活用しましょう。

阪神・淡路大震災の死者の 約8割は家屋の倒壊等による圧死でした。自宅の耐震 診断を行い、安全性を確認してください。

Q 耐震診断をしたことがありますか。



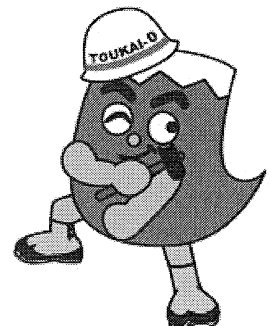
※「検討中」の項目は、平成17年度から設定した。

阪神・淡路大震災では、昭和56年5月以前に建築された旧建築基準の木造住宅に大きな被害が出ました。地震で大切な命を失わないためには、地震で倒壊しない住宅にする必要があります。

そのため、静岡県では市町と連携して、木造住宅の耐震化を促進するプロジェクト「TOUKAI（東海・倒壊）ー〇（ゼロ）」を推進しており、建築士や大工などの専門家による耐震診断・補強相談を無料で受けることができるほか、耐震補強工事費の助成なども行なっています。

耐震補強工事には 補助金が出ます。

専門家による耐震診断により、「倒壊又は大破壊の危険がある」、「やや危険」と判定された旧建築基準の木造住宅を耐震補強工事する場合には、県及び市町から補助金が出ます。

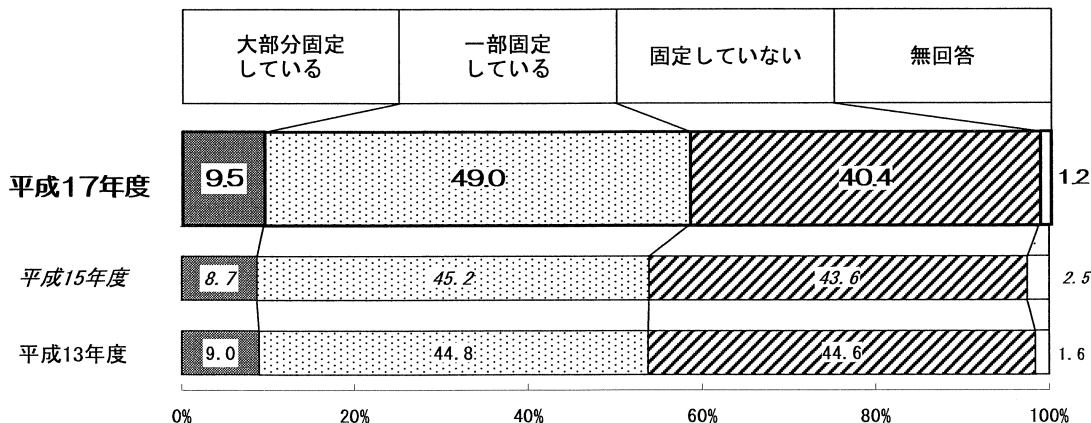


● 詳しくは各市町の建築指導担当課又は県建築安全推進室までお問合せください。

(054-221-3320)

地震発生時に転倒・落下する家具や家電製品は非常に危険な凶器となります。 自宅の家具類の固定は急務です。

Q 地震に備えて家具類の固定をしていますか。

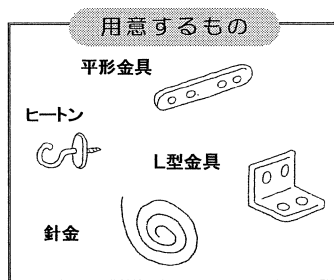
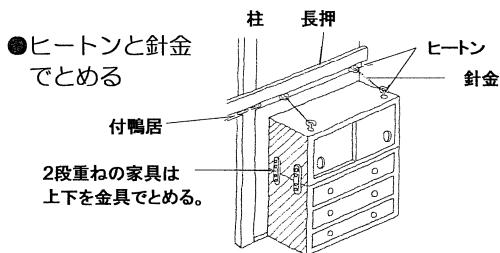


確認しましょう

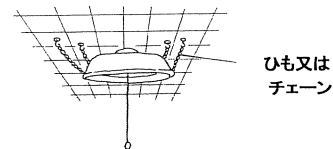
- ・重い家具は寝室に置かない。
- ・重い荷物は高いところに置かない。
- ・家具の配置を考えて安全なスペースを確保。

家具類の固定方法 (例)

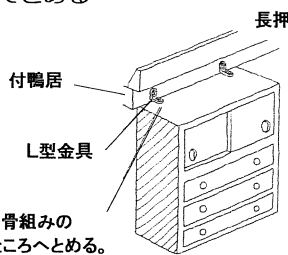
背の高い家具は、鴨居に針金やL型金具でとめる



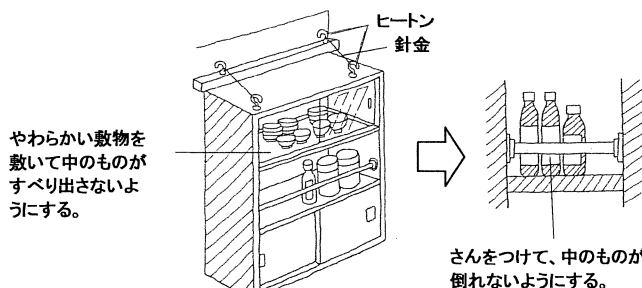
●つり下げ型照明器具のとめかた
器具の4すみをひも又はチェーンでとめて器具が天井にふれないようにする。



●L型金具でとめる



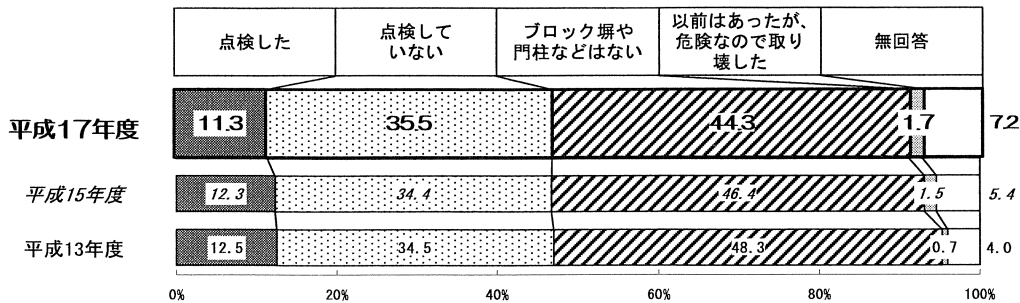
●食器戸棚のとめかた



・壁に金具やヒートンを取り付ける場合には、間柱などの地下があるところをみつけて取り付けましょう。

石塀・ブロック塀が倒壊すると通行人に被害を及ぼす可能性があります。必ず点検してください。

Q ブロック塀や門柱などの安全性について点検していますか。



ブロック塀の5点検

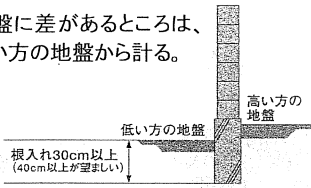
(以下の5項目について点検しましょう。)

① 基礎の根入れはあるか

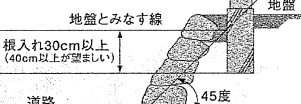
適・不適

コンクリートの基礎は、地盤から30cm以上根入れされている必要があります。まわりを掘って調べて下さい。
(根入れは40cm以上が望ましい)
(「根入れ」とは、基礎のうち土の中に入っている部分をいいます。)

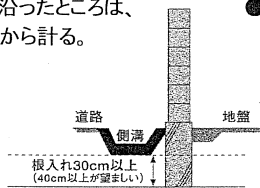
● 地盤に差があるところは、低い方の地盤から計る。



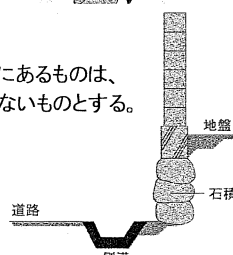
● 石積の近くにある塀は、図のように計る。



● 側溝に沿ったところは、側溝底から計る。



● 石積の上にあるものは、根入れがないものとする。

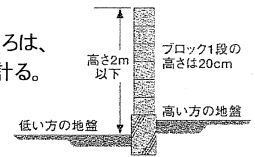


② 塀は高すぎないか

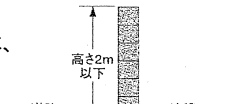
適・不適

塀の高さは、地盤から2m以下がどうか調べて下さい。

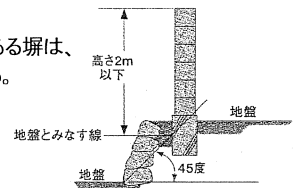
● 地盤に差があるところは、低い方の地盤から計る。



● 側溝に沿ったところは、側溝の底から計る。



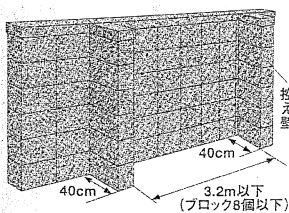
● 石積の近くにある塀は、図のように計る。



③ 控え壁はあるか

適・不適

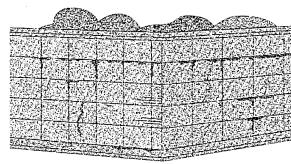
- ① 控え壁は塀の長さ3.2m (ブロック8個) 以下ごとにあるか
- ② 控え壁の長さは40cm以上あるか



④ 塀の傾き、ひび割れはないか

適・不適

塀が傾いたり、ひび割れしていないか、また鉄筋が錆びていないか
鉄筋の入っているところに沿ってブロックが茶色ににじんできたり、はじけていたら、中の鉄筋が錆びています。



⑤ 塀に鉄筋が入っているか

適・不適

直径9mmの鉄筋が次の①、②、③のように入っているか。
この点検は、掘を造った施行者などと相談して行って下さい。
①鉄筋が、縦横とも80cm以下の間隔で入っているか。(縦筋は40cm間隔が望ましい。)
②縦筋は、頂部の横筋、または、基礎の下側の横筋にかがけられているか。
③控壁の鉄筋も①②のように入っているか。

※ 点検結果に1つでも不適合があれば、そのブロック塀は危険性が大きく、改善する必要があります。